

令和 2年 3月

太田真貴 学位論文審査要旨

主 査 吉 岡 伸 一
副主査 尾 崎 米 厚
同 兼 子 幸 一

主論文

The relationship between cognitive distortion, depressive symptoms, and social adaptation: a survey in Japan

(認知の歪み、抑うつ症状、社会的適応の関係：日本での調査)

(著者：太田真貴、竹田伸也、朴盛弘、松村博史、荒木隆之、細田直子、山本陽子、
榊原文、兼子幸一)

令和2年 Journal of Affective Disorders 265巻 453頁～459頁

参考論文

1. 介護職の職場主導型ストレスマネジメントプログラムの効果検討

(著者：太田真貴、竹田伸也)

平成30年 産業ストレス研究 25巻 421頁～433頁

審査結果の要旨

本研究は、うつ病の予防や社会復帰促進に関連すると考えられている、認知の歪み、抑うつ症状、社会適応度という3因子間の関連を、勤労者へのアンケート結果を用いて、うつ病の認知理論及び行動モデルに基づく仮説モデルを構築して検討したものである。その結果、認知の歪みは抑うつ症状に影響するとともに、抑うつ症状を介して間接的に社会適応度に影響を与えた。さらに、認知の歪み尺度（WCDS）の二つの下位尺度のうち、自己完結的な認知の歪み（WCDS-S）は直接的に社会適応に影響したが、環境依存的な認知の歪み（WCDS-E）は直接的影響を及ぼさなかった。本論文の内容は、うつ病の社会復帰を促進するうえで、抑うつ症状だけを対象とせず、認知の歪みの特定の下位項目を対象に介入することの有用性を示唆するものであり、うつ病の心理社会的治療法の研究において明らかに学術水準を高めたものと認める。